

タイトル「**2021年度スポーツ科学部(公開用_コロナ対策版)**」、フォルダ「**スポーツ科学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	SSCS2322		
科目名	救急処置法		
担当教員	布袋屋 浩		
対象学年	1年,2年,3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	月 3		
講義室	オンライン	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門科目		
科目中分類	専門基礎		
科目小分類	専門基礎		
科目の位置付け（開発能力）	■DPコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E 学識・専門技能 スポーツ生理学分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP3-G 状況把握力・判断力 自らの置かれた状況、及び自己が帰属する集団の内外の状況を的確に把握し、適切に対応することができる。 DP4-F 探求力・課題解決力 問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 DP4-I 理解力・分析力 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 ■CRコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（CR）との関連 E1 学識と専門技能（55%） G1 状況把握（15%） F2 課題解決（15%） I1 理解・分析と読解（15%）		
教員の実務経験	担当教員の救命救急医師として、および各種スポーツ競技のチームドクターとしての経験から、教科書や文献を読むだけでは得られない知識や体験談を交えながら、現実的な視点で勧めています。（全回）		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発目標ステージとの対応 2 進行期 ～ 3 発展期		
科目概要・キーワード	救急処置を要する状況は、スポーツ活動時のみならず日常生活の中で遭遇することが多いです。そのことを踏まえ、日常に遭遇する救急事態からスポーツや屋外活動における救急事態に至るまでの様々な状況に対して、適切に対応できるように基礎的知識を資料・視聴覚教材等を用いて学習するとともに、対処のポイントを学修します。特に、創傷の出血対策や感染症に対する理解を深め、生命に直結する重要な心肺呼吸器疾患や病態についても学修します。授業形態は講義形式により行います。なお、授業を補完・代替するためオンデマンド型オンライン授業を取り入れます。 ■キーワード 救急処置、熱中症、RICE処置、心肺蘇生法、AED		
授業の趣旨	■副題 救急時の一次救命処置、心肺蘇生(胸骨圧迫)法、AEDの使用方をマスターするとともに、スポーツ活動中に起きやすいケガや病状について、どのような徴候や状態に、どんな救急処置を行うべきかを知り、処置のしかたを身につけましょう。 ■授業の目的 一次救命処置、心肺蘇生法、AEDの使用方をマスターすること、およびスポーツ活動中のケガに対する救急処置ができるようになることを目的とします。 ■授業のポイント スポーツ活動中に多いケガ（スポーツ外傷）およびRICE療法についての理解を深めておくことが重要です。		
総合到達目標	■救急処置が必要な場面に遭遇した場合に、適切な判断および処置対応が出来るようになるために、救急処置に関する基礎的知識を修得し、一次救命処置や外傷時の救急処置を遂行する能力を身につける。 ・心臓突然死、心臓振盪など救急処置が必要な病態についての理解を深め、心肺蘇生法の手順、胸骨圧迫の実際、AEDの使用法など、救急時の一次救命処置のしかたを身に付け、説明できるようになる。（第1-5、15回） ・スポーツ活動中に発生しやすいケガや故障、すなわちスポーツ外傷・障害に関する知識を深め、初期対応法を修得し、実際の現場で実践できる。（第6-13,15回） ・スポーツ外傷に対するRICE処置の重要性、アイシングの留意点、具体的な方法、応用法などについて学習し、実際のスポーツ現場に活用できる。（第1,7,8,13回） ・スポーツ活動時に発生する内科的疾患として、熱中症、胸痛、呼吸困難、ショック、脱水などの病態及び初期対応について理解し、適切に対応する能力を身に付け、実践できる。（第2,13-15回）		
成績評価方法	■レポート(70%)：適用ルーブリック E1・G1・F2・I1 (評価の観点) 授業内容の理解度を図ります。 (フィードバック方法) 授業時間中に解説を行います。 ■リアクションペーパー(30%)：適用ルーブリック E1・G1・F2・I1 (評価の観点) 授業の内容を踏まえて理論立てて明確に説明できるかを評価します。 (フィードバック方法) 後日個別に対応します。		

履修条件	特にありません。	
履修上の注意点	特にありません。	
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ ガイダンス、救急処置の基本的知識 ②授業概要 担当教員の救命救急医師として、および各種スポーツ競技のチームドクターとしての経験を踏まえた授業の概要、目的、進め方や評価の方法などについて説明を行う。救急処置の重要性、救急処置実施者の心得、救急処置の基本的留意点について理解する。 ③予習(120分) シラバスの内容をよく確認し、教科書を手し範囲を確認する。 ④復習(120分) 授業内容を確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。
	2	①授業テーマ 熱中症に対する救急処置 ②授業概要 熱中症に関する担当教員の実務経験に基づいた講義を理解し、それを踏まえて、熱中症とは、熱中症の分類、熱中症の対処および予防について学び、説明できるようになる(E1, F2, G1, I1)。 ③予習(120分) 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキストⅠ⑦p97-4応急手当、環境による緊急事態、熱中症 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキストⅢp211-(1)暑熱対策;熱中症を読んでおく。 ④復習(120分) 講義内容を確認し、熱中症について自分なりにまとめておく。
	3	①授業テーマ スポーツ現場における心臓突然死と救急処置 ②授業概要 心臓突然死とその救急処置に関する担当教員の実務経験に基づいた講義を理解し、それを踏まえて、心臓突然死とその対応について、スポーツ現場における救急処置の実際を習得し、説明できるようになる(E1, F2, G1, I1)。 ③予習(120分) JATI[理論編]p172- : 3 緊急時の一次救命処置、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキストⅠp88～を読んでおく。 ④復習(120分) 心臓突然死について自分なりにまとめておく。
	4	①授業テーマ 救急時の一次救命処置(BSL)、心臓振盪と心肺蘇生法、AED ②授業概要 一次救命処置に関する担当教員の実務経験に基づいた講義を理解し、それを踏まえて、心肺蘇生法の意義、必要性と基礎知識、心肺蘇生法の実際について学び、説明できるようになる(E1, F2, G1, I1)。 ③予習(120分) JATI[理論編]p172- : 3 緊急時の一次救命処置、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキストⅠp88-95 : 3 一次救命処置、心肺蘇生の手順を読んでおく。 ④復習(120分) 緊急時の一次救命処置(BSL)、CPR、AEDが使用できるようにする。
	5	①授業テーマ 突然死の予防、胸骨圧迫の実際 ②授業概要 胸骨圧迫法の実際に関する担当教員の実務経験に基づいた講義を理解し、それを踏まえて、突然死の原因とその予防、CPR、胸骨圧迫とAED使用法を他人に説明できるようになる(E1, F2, G1, I1)。 ③予習(120分) JATI[理論編]p172- : 3 緊急時の一次救命処置、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキストⅠp88を読んでおく。 ④復習(120分) AEDの場所を確認しておく。心肺蘇生の手順を他人に指導する。
	6	①授業テーマスポーツにおける外傷・障害 ②授業概要 担当教員の実務経験に基づいた、スポーツ活動時に発生するケガや故障、すなわちスポーツ外傷とスポーツ障害に関する講義を理解し、それを踏まえて、スポーツ外傷・障害ついて、その病態の違いや初期対応の実際を学修し説明できるようになる(E1, F2, G1, I1)。 ③予習(120分) 自身が今までに経験したスポーツ活動に伴ったケガや故障についてまとめておく。 ④復習(120分) スポーツ外傷・障害の特徴とその対応について、自分なりの説明をまとめる。
	7	①授業テーマ 外傷時の救急処置①、皮膚などに傷のないケガの処置 ②授業概要 (1)外傷とは、(2)炎症とは、(3)組織の損傷、(4)アイシングの効果、(5)RICE処置の重要性、留意点、具体的方法、応用方法などについて、担当教員の実務経験に基づいた講義を理解し、それを踏まえて、その内容を説明できるようになる(E1, F2, G1, I1)。 ③予習(120分) 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキストⅠp98-101 : 外科的応急処置、RICE、JATI[理論編]p164- : 1 外傷の救急処置(皮膚などにキズのないけがの処置)を読んでおく。 ④復習(120分) 講義内容を確認し、皮膚などに傷のないケガの処置について自分なりにまとめておく。
	8	①授業テーマ 外傷時の救急処置②、皮膚などに傷のあるケガの処置 ②授業概要 皮膚などに傷のあるけがの種類と危険性、出血の種類と止血処置、感染防止などについて、担当教員の实務経験に基づいた講義を理解し、それを踏まえて、説明できるようになる(E1, F2, G1, I1)。 ③予習(120分) 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキストⅠp96-97 : 4 応急手当、外傷による緊急事態、Ⅰp102 : 傷の手当てと応急処置、JATI[理論編]p170-172 : 2 創傷の応急処置(皮膚などに傷のあるケガの処置)を読んでおく。 ④復習(120分) 講義内容を確認し、皮膚などに傷のあるケガの処置について自分なりにまとめておく。
	9	①授業テーマ 突き指、捻挫、靱帯断裂、肉ばなれ ②授業概要 スポーツ活動時によく遭遇する外傷として、突き指、捻挫、靱帯断裂および肉ばなれについて、担当教員の实務経験に基づいた講義を理解し、それを踏まえて、自身が受傷した時に対応できるようになる(E1, F2, G1, I1)。 ③予習(120分) 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキストⅠp96を読んでおく。 ④復習(120分) 授業内容を確認して、スポーツによる外傷について自分なりの説明をまとめる
	10	①授業テーマ 外傷性骨折について ②授業概要 スポーツ外傷や交通事故、転倒・転落などで発生する外傷性の骨折について、担当教員の实務経験に基づいた講義を理解し、それを踏まえて、外傷性骨折の病態および初期対応法を説明できるようになる(E1, F2, G1, I1)。 ③予習(120分) 人体の骨について名称を覚えておく。 ④復習(120分) 授業内容を確認して、骨折について自分なりの説明をまとめる。
	11	①授業テーマ 頭頸部・脊椎外傷時の救急処置 ②授業概要 担当教員の实務経験に基づいた講義を理解し、それを踏まえて、頭部外傷および頸部外傷の救急処置の留意点、処置の実際、現場での応急処置の実際について学び、説明できるようになる(E1, F2, G1, I1)。 ③予習(120分) JATI[理論編]p177- : 4 頭頸部外傷時の救急処置、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキストⅢ第7章3-2頭頸部の外傷・障害(p187-188)を読んでおく。 ④復習(120分) 講義内容を確認し、頭頸部外傷について自分なりにまとめておく。
	12	①授業テーマ 理解度確認 ②授業概要 救急時の一次救命処置、心肺蘇生(胸骨圧迫)法、熱中症、スポーツ外傷・障害に対する初期対応法などについて理解度確認テストを行う。 ③予習(120分) これまでに学んだ内容の総復習をしておく。 ④復習(120分) これまで学んだことと理解度確認テストの内容を振り返り、知識の再検証をする。

	13	①授業テーマ サポーターとテーピング、装具療法 ②授業概要 靱帯損傷などの時に使用するサポーターとテーピング、スポーツ用装具について、担当教員の実務経験に基づいた講義を理解し、それを踏まえて、これらの使い分けができるようになる(E1, F2, G1, I1)。 ③予習(120分) 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキストⅠp96を読んでおく。 ④復習(120分) 授業内容を確認して、スポーツに外傷に対する装具及びテーピングの使い分けについて自分なりにまとめる。
	14	①授業テーマ その他の内科的疾患や特殊な疾病の救急処置 ②授業概要 過換気症候群、感染、発熱、頭痛、めまい、胸痛、呼吸困難、腹痛、ショックなどの病態及び救急処置対応について、担当教員の実務経験に基づいた講義を理解し、それを踏まえて、説明できるようになる(E1, F2, G1, I1)。 ③予習(120分) 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキストⅠp96-97（応急手当）、Ⅲp211-214（低温(寒冷)対策、高地対策、時差対策、感染症対策）を読んでおく。 ④復習(120分) 講義内容を確認し、各種応急手当について自分なりにまとめる。
	15	①授業テーマ まとめと理解度確認 ②授業概要 これまで学習してきたことを総括するとともに、理解度確認を行う。 ③予習(120分) 今までの講義内容および教科書を読み直し、各回のテーマに関する知識を整理し自分の考えも含めて論じられるように準備する。 ④復習(120分) まとめおよび試験の内容を振り返り、救急処置法に関する知識を再検証するとともに今後の学習計画を考える。
関連科目		
教科書		JATI認定トレーニング指導者テキスト[理論編]p164～179：救急処置法 ISBN978-4-469-26755-6
参考書・参考URL		日本スポーツ協会 公認スポーツ指導者養成テキストⅠp88～102：救急処置 日本スポーツ協会 公認スポーツ指導者養成テキストⅢp211～214：特殊環境下での対応
連絡先・オフィスアワー		■連絡先：開講時に告知します。 ■オフィスアワー：水曜4限 それ以外の時間についてはメール等でアポイントをとればラーニングセンターや研究室等で対応します。
研究比率		

